







らふ、おのゝのゝ四天のあせせまて四時  
景の傑のふをあく、まゝ、おのゝあせ、  
らふ、おのゝ

ふ、おのゝ、あせ、まて

大正天奇洞志

凡例

一 万和の名門人よ、譲りて、今、所、贈、せ、  
ゆ、ふ、稿、を、脱、せ、一、後、な、れ、き、を、  
ふ、ま、と、万、和、と、ま、る、せ、一、を、今、乃、  
所、贈、子、の、り、あり、  
一 句、ハ、碎、室、の、日、記、より、摘、り、り、し、ま、  
て、ふ、え、の、こ、う、い、馬、馬、の、書、損、も

ありぢんえん人ひとつけまらん  
 六と紙祢ふ

一書りくぬる句又多かる人  
 後篇の時とせしむ

俳諧今四家讀句集春と部目録

初楳	春の月	湯炎	つらま	東風	萬葉	歲旦
刈れ	春風	春の水	初年	琴	数入	太著
蝶	永日	春の雨	祢えん	塔	松の月	かき
雛	栞	春の心	ひかん	梅	正月	子の日
つた	菜の花	春の奴	巾	柳	余を	若菜
雪	さくら	朧月	かすこ	春草	春の鳥	野老



えりやあつらひつれし一乃都、  
 びやあやや月をさうくしのびのま、  
 ころあに声のさうひまのさうさ、  
 えりやあつらひつれし人さうの、  
 ちやあつらひつれし梅のむ、  
 雪 雄  
 万 和

太皇者

太皇者さうくつれし一日さうの、  
 ちやあつらひつれし人さうの、  
 雪 雄  
 蒼 虬

勝

われ人乃ものともなすれさうの、  
 ちやあつらひつれし人さうの、  
 雪 雄  
 蒼 虬

子日

西夜の力つれし人さうの、  
 ちやあつらひつれし人さうの、  
 木 酒  
 雪 雄

あま

船さうりれくさうりあまの、  
 ちやあつらひつれし人さうの、  
 蒼 虬  
 蒼 虬

秋の夕暮を愛するはもて  
仁の心を思ひて  
君の心を思ひて  
芥子も  
わすれぬ  
十村の  
雪  
権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権

雪権  
万葉の  
雪権



春 雪

雪はたつちをまじりてやさるる雪の雪  
 雪は木のけりゆくや春の雪  
 雪は雪のやまを被る雪の雪  
 雪は目ふく雪もつや春の雪  
 料理場まじりて雪もつや春の雪  
 雪は雪のむらさきへ雪の雪  
 雪人と雪うみも雪も雪の雪  
 雪は雪の雪の雪の雪の雪  
 雪は一門おれ雪の雪の雪  
 雪は雪の上へ雪の雪の雪

蒼虬

雪柱

木海

東 風

東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青  
 東風のやけをまじりてお生青

木海

蒼虬

木海

うらみよ乃きんたやしてはまなる  
 うらみよ乃水徳きやのひやうき  
 うらみよ乃うらみよ乃ぬ橋の友  
 うらみよ乃おき行てかむ日武  
 うらみのひきしてまらり沖乃西  
 うら乃くきてきんくうつきうふ  
 うらや木のぬきまをぬきん  
 うらにうらうてあがり松乃海  
 うらや人志はるけをきなり赤  
 うらきく志のうらぬきよ田芥くふ  
 うらの怪きあうけや色乃弁

聖  
 燈

うらよ乃まよもみよよこく乃  
 うらのきまよ白勝乃うら色う南  
 うらやうらまの心これハきんく  
 うらけきまきんにくぬきんくうふ  
 うらのゆのうらうらふゆきんく  
 うら乃鳥も乃らぬきんくうきん  
 うらきあうらまのうらきんくう  
 うらきうらやまきんくうらまの  
 うらのぬきんくうまのうら  
 うらまのうらうらまのうらまの  
 うらやうらまのうらまのうら

万  
 和

ささの柳々々々も仕るまづ  
ささの豆ふけ一本も増らぬる  
ささよりあもえせりり葉を  
ささも子の母のささよ松の中  
ささよ夕日一ツのささり

蛤

蛤の口つくことさすけり風木海

梅

折りけり人味てかるり梅式 蒼虬  
書使とくさハんさく梅乃も  
大さのさすいささや梅の花

ささ鞋をのささりさす折を梅の花  
ゆきののはささりやささのさ  
ささのよるささかたささ梅の花  
ささ梅や梅さの夕ささささ  
ささほささささささささ梅  
かさささ梅のさささささ  
梅一本門乃ささ梅のさささ  
ゆきささや梅のさささささ  
西使の梅ささささささ  
すさささささささささ梅  
世乃中一のさささささ梅



門ニワ河舟ハ一ツカク先ヨク  
山川ヤ松を植てと梅乃竹  
霧のよる四ノ目ハ清き梅乃雪  
夏ノ水々々々や梅ノ葉の水  
照る光と隣りてや梅ノ葉  
白く紅くや梅乃花乃先乃花  
梅ノハ緑白一けりな山ノ  
く先乃花乃梅乃花乃花乃花  
お舟々も清くはつらう先乃花  
二本乃花乃花乃花乃花乃花  
るく入すあつらう梅乃花乃花

ゆきの庵より引く先乃花乃花  
灯をこつとせやく先乃花乃花  
きおひかきぬ先乃花乃花乃花  
つらうとつらうつらう先乃花  
子供ホニむし後乃花乃花乃花  
まききんて入あつらう梅乃花  
梅乃花乃花乃花乃花乃花乃花  
表をまきく先乃花乃花乃花乃花  
さくくつらうの梅乃花乃花乃花  
くくくつらうの梅乃花乃花乃花  
お舟乃花乃花乃花乃花乃花

木海

うさぎとよたひのりぬも梅若む  
 虫あかりとくものもやましく丸の花  
 如月やよのけし行ぬく丸なるも  
 梅に在りさきさきとこしめし流  
 二階うゝそめめかき梅咲ふき李  
 門役のさねももようきし梅なるも  
 多美すねはまきしし梅のむ  
 うそのちらひ四月のまや梅のむ  
 梅折やほくまよふ人まきす旭  
 梅うきよあひさしきもあつめ  
 眼うきとんはふまきえに月と梅

万和

小坊きうきあはるまよと梅のふ

柳

産来ききまきしつらまは柳り  
 衣うきくやうになりきま江乃柳  
 ち柳の所も白つとせぬ小家なる  
 とくくとまはきくまかいと柳  
 いととあも小坊乃柳の柳き南  
 地崩の出ていさかか柳が  
 柳さとり流いとも柳う難  
 いととあももの柳柳ふももも  
 了流あきしつら風乃柳う難

蒼虬

をちまひりまきまきりする柳哉  
 文科のきりりきり結柳哉 雪雉  
 さくさくさくさくさくさく結柳哉  
 江乃柳さよのふゆるさくさく  
 柳さよにらさくさくさくさく  
 海老さくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく

つゆのさくさくさくさく柳のさくさくさく  
 結早くさくさくさくさく柳のさくさく  
 やさくさくさくさくさくさく柳のさくさく

まきさくさく

さくさくさくさくさくさく柳のさくさく  
 さくさくさくさくさくさく柳のさくさく  
 さくさくさくさくさくさく柳のさくさく

若草

さくさくさくさくさくさく柳のさくさく  
 さくさくさくさくさくさく柳のさくさく

柳

さくさくさくさくさくさく柳のさくさく  
 さくさくさくさくさくさく柳のさくさく

木海

蒼君

雪雉

木海

ねえん舎

福らん夢や流るむちの色の色 万和

彼岸

山さよによい鐘乃なる 彼岸哉 蒼虬

伊の歌

草花や口を結くも後を凡中の言 雪旌

そめ

そめりや懸くもやうく人おりの 木満

阿十のりおととぬ者もそめりり 蒼虬

あひおき田一板やわらぬみりき 蒼虬

はあらしりおれしあやや丘乃家 蒼虬

夕うきも揃乃つと掃ついのり 雪旌

福歌

福あや紅いなるる子を待たて

福あや日しけへ向留牛の鼻

福あや白ふえしぬ杖より

春水

昔乃もひらきそ奔くそ流の水

て流ちのこゝねをりりりも留の水

春白

けしりもあまのりすや春乃る

あてし入らてふもあれぬあまの白



町よりそこのまをきやちるるる  
暮るるに社とまらぬんりりり  
暮るるやそ外人もあえりり  
暮るるに武者の少路の谷目式  
暮るるをとり記くそ外人もあえり

暮山

宗祇のころはむ多外も暮るる  
暮るるに社とまらぬんりりり  
暮るるやそ外人もあえりり  
暮るるに武者の少路の谷目式  
暮るるをとり記くそ外人もあえり

春夜

暮るるの下の風の清すらあじ

木海 雪 旗 蒼 虬

暮るるのよんれすものう  
暮るるのよの晴くちるる  
暮るるのよの船はくちるる  
暮るるのよのつるるの松と松  
暮るるの夜やつるるの松と松  
暮るるの夜やつるるの松と松

暮山

山より井にさるる暮るる  
川水の何れかあひさるる  
お傍るあひさるる  
以上とさるるの暮るる

木海 蒼 虬

上ハ纏乃サレ乃ハ夜う南

春夜

大方のものス一清らり春乃夜  
くさくさともわねにけりまをの月  
波乃乃あしりさるる春乃夜  
ぬりぬりさるるあつた春乃夜  
いつまけりまの田の上乃春乃夜  
りけりの中一きおらりまの月  
空電の煙のけり乃春乃夜  
一おめるやよも飛ちけりまの月  
三まら橋の末をけりまの月

蒼 虬  
雪 旌

春風

春風や船まつとせれまらう  
あけつるやまのるのけりまの月  
春風やゆるりまのるのけりまの月  
余あるとせれまのるのけりまの月  
さるるやまのるのけりまの月  
春風のあられハえ申す芥田ハ  
春風や揺てもおろす宮の雲

永日

日長しとひり男の和情乃声  
を合りてつる日長し下河原

蒼 虬  
雪 旌  
木 満  
万 和

永日やはらしい色乃ち若くは  
片さいつたしきんや生以頃  
木 満

接

大和路乃せんさくよもの赤襦  
ほ船とまきこしなりや 落橋  
川邊とぬにうねりあつたれ  
阿なうちふねをかかぬはさき  
日られていあまのちうくちう様  
ちう様ゆらこころを何し時  
雪 旌

茶本の色

茶本のむらさきくしく入日う那  
蒼 虬

寺の女東ハ早くも花ふ来りたり  
茶本の花や春林の鶯囀乃猫  
雪 旌

すし紅

すし紅さきちうつた新もれぬ  
甘きさくふりきりぬすし紅子  
信草さく為すし紅さくしき  
龜のなみりしきりぬすし紅子  
万 和

お梅

花さかぬるのよつと山さく  
けつさきぬりしきりぬすし紅子  
とつ梅さくぬるのよつと山さく  
雪 旌  
木 満  
蒼 虬

松風のふくくはつらつと卯梅  
をたれたらうらうらとくはし小舟  
深山木の懐もあまきし和らう  
ここのち初むふそまわりぬ  
万和

卯 蝶

白くちをまきくはあはれや卯 蝶 木 満

こゝろ

はれやうー只くあく聖のふ  
あまはらう人よはくこ白りふ  
ゆつてふ乃新ハ早ぬふまうはらう  
雪 旌

籠子

籠子鳴や結る日御ハ海らうり  
飛るるや命投出あな籠子の声  
滝壺よ 今くこくこく籠子の声  
息をたよ支婦 何おや籠子乃くあ  
籠子鳴や 壺の上はく吹ふうを  
あまなく籠子ハみまき 小松系  
鳴控くまうらうりあまうらう籠子  
籠子の声 稲妻 籠子ハひらうりぬ  
くあらわくあつてあまうらう籠子の声  
まろの籠を地よりあまうらう 乃声  
つ良のこくあ 籠子のきくうらうか  
蒼 虬  
雪 旌

燕

燕や池田のそ橋に巣を建てて  
あやや何をもささやくる乃年  
あふりうすもな一 ち免の漏 木海

や雀

第のへるこらうまもけつやき  
ひらけはあや田とむ飛をり武  
昇のたをむやあふ雀一や雀  
上りてくすけは友あむやきうふ  
鳴きをよれたてらうまもけつ  
夕ひくろ子よわくこのけうわらう

木海

雪旗

雪旗

木海

まの葉を埃味借もらんせといふ  
葉をたたくまに孫てえる  
湯よりにすまへうさまぬ  
菴のむとすま〜事〜りぬ  
佐保姫にう〜信を〜あてぬ  
まら〜さ〜物も〜す〜る  
あややあやあやあやあや  
りけもあやあやあやあや  
きりあやあやあやあや

蜺

二三合物... 交ぬあ... 行う南 雪 旌

田際

野の羽にう布込るの田... 旌

蛙

子を... 静か... の... 旌

桶... の蓋... 旌

大河に... 小川... 旌

山... 旌

立... 旌

み... 旌

猫の鳥

木 蒼 旌 虫

猫乃... 旌

猫の... 旌

春... 旌

木 旌

汐干

静の... 旌

ま... 旌

鯉

雪 旌

実... 旌

魚... 旌

雪 旌

蒼 旌 虫

道解

麻の中の花は餅に餅とぬきと茶 一万和

やすしいよ

懐もきりやすらむよ

概

白梅を慕ふらんそとに梅乃花 雪種

人乃多ふり行はれり梅を 木

百姓り屋敷うまへり梅を 海

花

少き花は流るる花乃さうり哉 蒼虬

花乃た茶屋の速候はるる哉

ちと花のつふき花なればは哉

脈とくやんや花のねら飛ら

むしりくくく後花のむす哉

系とくくく行はれり水 雪種

花乃行飛りくくくにあいさう

回一白三夜合一ぬ花うら

あ細の昔にもなすくもはち

むの白枝えくく人ぬし

十人九人ハ梅くくく

人くくく花乃行はれり

若くくく花とくくく

花のつらきものありしうら  
 一は焼にきく花さきし海の花  
 雪のあふなふむのさうりうら  
 白きとく宝ちあふさるのむし  
 花のくはくや幻に時時には室  
 古川乃きややむり七まて程  
 花の白き人へ飽く危  
 花乃たは花行へ後乃名をばし  
 花のさきに又あくくや月教う南  
 花の葉よりやうきくくは  
 水飲くく花あうく花乃き  
 木  
 海

花のつらきものありしうら  
 一は焼にきく花さきし海の花  
 雪のあふなふむのさうりうら  
 白きとく宝ちあふさるのむし  
 花のくはくや幻に時時には室  
 古川乃きややむり七まて程  
 花の白き人へ飽く危  
 花乃たは花行へ後乃名をばし  
 花のさきに又あくくや月教う南  
 花の葉よりやうきくくは  
 水飲くく花あうく花乃き  
 花のつらきものありしうら  
 一は焼にきく花さきし海の花  
 雪のあふなふむのさうりうら  
 白きとく宝ちあふさるのむし  
 花のくはくや幻に時時には室  
 古川乃きややむり七まて程  
 花の白き人へ飽く危  
 花乃たは花行へ後乃名をばし  
 花のさきに又あくくや月教う南  
 花の葉よりやうきくくは  
 水飲くく花あうく花乃き



花さきさき白う降くありし  
 窓をさきまけたりと影の花さき  
 ころ、あつと揺れおほむの文が  
 記さるる中針さつ急め花  
 幸つむも中さむの強味は  
 むの戸に殺害ぬく中よい仕舞  
 ちれはこそふさふさあけさ  
 何ゆゆもさよさむめ小あは  
 さくは  
 山水や橋やいさふあはれ  
 さくは  
 蒼  
 虬

花さきさき白う降くありし  
 窓をさきまけたりと影の花さき  
 ころ、あつと揺れおほむの文が  
 記さるる中針さつ急め花  
 幸つむも中さむの強味は  
 むの戸に殺害ぬく中よい仕舞  
 ちれはこそふさふさあけさ  
 何ゆゆもさよさむめ小あは  
 さくは  
 山水や橋やいさふあはれ  
 さくは  
 蒼  
 虬

木  
海

雪  
旗

人訓とさくやみくやまう危  
伊象あゝ夕も又之に操 人 一万和  
目のおい香めたき 操 ぶ  
たのむ本い空一 操のまきくは  
その中一 操のまきくはよく東  
山水又 詮いっすきくくぶ

遅 操

深き子のあつきの里く 雪 旗

山 崎

山崎に一里く山崎人乃 蒼 虬

山吹き走つう好也やう車  
山吹を入口にうてやぬ乃家  
山吹の系下のうの家う南  
山吹又文りく 傘 本 履 万 和 旗

湫の双り 海 棠 雪 旗

海棠やうく 木 海

草 翹

まらん 翹のあふかぬも 花の時 蒼 虬  
花の時

柳をばいふとくわうそ羅のみむ  
雪旌  
ほくまはくくうそくあよまのた

妻の言

春の言を兼著して  
梅満

行春

川とや門の遠き目くおて  
揺くまのわおあや産はし  
川とや藤乞のゆとあよ入て  
湖と枕も浮てくま無り  
滝の音耳馴たれたまハリ  
揺く水や妻をんるほもくあ

乞とこのまふまをさ家の春  
大坂やまを揺まを船り  
揺く春やふのあよ花の子  
揺くまはくくうそくあよまのた  
ゆまよまわくくうそくあよまのた  
雪旌  
万和

從新今言家私集夏終

儂訓今言家私集夏終部目錄

四月	杜若	麦秋	園居	端午	蚊帳	あや
福	葵子	巾の子	行	粉	蚊	あや
灌佛	卯の系	青梅	地	浮草	火	あや
文敷	一八	葵	水鷄	初鯉	競馬	あや
短夜	若楓	夏木立	鶯音	唐子	粽	あや
牡丹	若紫	時鳥	螢	蚊巻	遠	あや
						あや

竹婦人	夏山	夏月	六月	御稔	
暑	雪の峰	夕立	清涼	涼	青河
直白	夕白	凡	夏芝	蟬	蠅
田植	扇	團	五月	火串	麻
萍	子	凌宵	葛の糸	苔の花	中破日

侘々流約七部集

新蛙合雪より結汲炭瓢嵐送外七月集  
月居 蒼帆 定来 道彦 升六  
芳刻 乙二 博堂 土綱

月新十家集句集

附深今世宗匠三十一人集句集

全部四冊

侘々々西家集句集夏

活碎室其成輯

夏

雪の白くくそをひ四白う南 雪 旗  
 瀬乃くそとけ住まよ四夜う系 木 旗  
 揺の揺まよけ 名を四月の 万 和  
 ある時た左このうまを四月の  
 拾  
 ちくまを以て先下拾う歌 雪 旗  
 謹佛

漢師や盟の月一 鳴す宛 蒼虬

矢数

大矢数累々や 代乃 勢う 噴 雲 旌

短夜

短夜を水ふさぐ 鳥の 音乃 乳 蒼 虬

みづうや 正江の 音乃 一 竹し 雲 旌

こころよき こと 鳴く 音乃 竹し 木 満

短夜のかげに 心うえて 伊の山 木 満

石乃 乃 ね 心 鳴 音乃 一 雲 旌

鳴 音乃 乃 ね 夜 音乃 一 雲 旌

短夜 中 月 心 の こと ぬ 垣 の 音 乃 一 和

牡丹

あけの ちりり と 落 ぬ 牡丹 乃 一 雲 蒼 虬

おと なる 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

牡丹 乃 一 雲 旌 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

接 接 乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

ま 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

ふ 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

牡丹

灯 心 の 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

こころ 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

あき 音乃 乃 痛 ぬ や 牡丹 心 乃 一 雲 旌

花子もいふ乃雨う〜籠るうまも  
 傘〜うけとむ〜さき〜杜の  
 人についでまをけ〜を子む  
 言様や〜人も船大あま花  
 杜のあも〜はらさあ〜はら  
 杜の杖も〜あて〜あ〜ま  
 ち〜ち〜た〜ち〜物〜物〜あ〜あ  
 か〜は〜〜〜は〜あ〜は〜あ〜危  
 氣〜言〜や〜〜杖乃あ〜のあ〜花  
 り〜あ〜〜の〜身〜ま〜し〜と〜牡〜あ  
 相〜も〜同〜お〜何〜の〜か〜さ〜つ〜〜

雪 雄  
 木 海  
 万 和

全四家上巻九

花子

花け〜や煙草のひまはめははて 木 海  
 夕〜夕〜や〜子〜鞋〜と〜百〜の〜草〜の〜む  
 備人の後〜と〜さ〜て〜け〜乃〜花  
 木〜鼻〜崎〜あ〜あ〜杖〜乃〜あ〜は〜あ  
 義深のあ〜う〜は〜あ〜う〜け〜の〜も 蒼 虬  
 さ〜あ〜ら〜も〜も〜あ〜た〜は〜あ〜あ〜一〜さ〜う〜杖  
 雪〜影〜の〜何〜は〜ら〜さ〜あ〜あ〜の〜む 雪 雄  
 と〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 字〜子〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
 ひ〜〜〜〜と〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

神一合々ちるや花子にも一競  
十日にと呼々侍ははくし乃毛  
ふきりかたも名かかられく東  
万和

おの花

おの花と侍々めさるや柱の帯  
おの毛や人かちりくははれを  
雪 蒼 虬

おの花乃こきとひきくははれを  
おの花や人かちりくははれを  
雪 蒼 虬

一八

一八や侍々昔神々屋林のま  
雪 蒼 虬

おの楓

赤色とあふりもけりも  
侍侍の侍々くははれを  
古井かた人の祝々くははれを  
楓 木 海

おの楓

ま〜ハ水扱々々々々々々々々  
少のハ回々々々々々々々々々々  
ささふささささささささささ  
一白の〜後ささささささささ  
梅侍の〜旗人出々々々々々々  
梅〜侍の〜ささささささささ

雪 蒼 虬  
旗





子規啼や夜はけの影りしや  
 俯向てすや鳥。乃ちあはれ  
 其聲ハいよ夜に似たり子規  
 語介一葉乃ち白ひやあはれ  
 けいやまゝて落るやあはれ  
 川風やふるきのきこえなき  
 燈籠にこそはるのあはれ  
 啼こえおしは時をわすれ  
 いふあつ小春もよまはれ  
 若くはえはあはれ  
 子規啼やあはれ

雪  
遊

子規啼や枯きよかへ  
 村の乃ちうらやま  
 又かきえあはれ  
 堰ふるあはれ  
 その声一吹とあはれ  
 昔乃ちあはれのあはれ  
 今あはれなりけ  
 又あはれやあはれ  
 子規啼やあはれ  
 部一あはれのあはれ  
 子規啼乃ちあはれ

木  
満

今も秋を乃常々入るる事とて  
 多見抜内さくしてさうした  
 時多身をかけらふの木のさだ  
 持てらるる初冬の時多  
 時多時多や身よりおぼろしく  
 又つ見てもたのまぬ夜を時多  
 時多時多とて来るとハ時多み  
 横むらぬ時多や初冬の時多  
 一おみ多  
 多み多のハ核多を吹く人  
 灯とのせハ何となく向く事多  
 雪 蒼 虫  
 旌 和

多み多の常々入るる事とて  
 多見抜内さくしてさうした  
 時多身をかけらふの木のさだ  
 持てらるる初冬の時多  
 時多時多や身よりおぼろしく  
 又つ見てもたのまぬ夜を時多  
 時多時多とて来るとハ時多み  
 横むらぬ時多や初冬の時多  
 一おみ多  
 多み多のハ核多を吹く人  
 灯とのせハ何となく向く事多  
 雪 蒼 虫  
 旌 和

納

多み多の常々入るる事とて

水鏡

新海へさめぬる勢の宿の元  
 時より勢目さそく流ハ人乃家  
 是成をいつしりやも勢ふ南の元  
 炬のやとやまここく時を勢  
 勢を今のこちれ位とささく水鏡  
 いしつおるもく勢りる勢る元  
 勢の元こくも勢りる勢りる元  
 横をさ減りもきつる元の水鏡  
 水鏡もくあれ勢りる勢りる元

蒼 虬  
 万 和

勢音入

全四家上四

勢をへく勢をさりいさ不うか 雲 旋

勢

勢追つたもく勢えの勢と志勢り  
 勢の勢ふ入つたもく勢りる勢りる  
 勢のたふあつたもく勢りる勢りる  
 勢かまの勢りる勢りる勢りる  
 勢の勢りる勢りる勢りる勢りる  
 勢の勢りる勢りる勢りる勢りる  
 勢の勢りる勢りる勢りる勢りる  
 勢の勢りる勢りる勢りる勢りる

舟のあつちをちつてゝあつちをちつてゝ  
舟邊で思ひをちつてゝあつちをちつてゝ  
材木のちつちを買ひてゝあつちをちつてゝ

木海

蝸牛

帆の風をちつてゝあつちをちつてゝ

蒼虬

かゝるちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

雪旆

かゝるちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

終

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ  
終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ  
終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ  
終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

蒼虬

五五

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

木海

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

雪旆

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

浮葉

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

終

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

蒼虬

終のちつちをちつてゝあつちをちつてゝ

万和

唐子

清きしたる後、其の荒の草  
蒼 虬  
雪 旌

蚊 巻

根引て泥をたけずの蚊巻  
木 海  
蚊 巻

蚊 帳

くねぬより蚊帳約半  
蒼 虬  
蚊 帳

全西家上四六

川 戒よきく蚊帳作らぬ  
雪 旌

蚊

糸ひりて鳴らして海苔に鳴らす

火 元 出

火より中鳴る片羽をやらせり  
火より中鳴る片羽をやらせり  
灯を消えぬを責めや夏の虫

競馬

標々つ先く人ありくへる  
万 和  
ちやま

荒とあれよのそ 標乃 象使 蒼虬  
沙岸そや 皇よふて 標 雪 旌

道

麻刈を けれなく おる 蒼虬  
松より ちりて 蒼色 蒼虬

あやめ

昔 瀧のり 水乃く 後を けり 蒼  
号 弁に ころり ちり べの ちや 免 虬

此を 陽也

此を 陽也 位 ちり ちり ちり 蒼虬  
此を 陽也 や 杜 終 終 終 終 終 雪 旌

今四家上座

号 弁に 衣 布 ちり ちり 雪 旌  
号 弁 や ちり ちり ちり 木 満

ちり ちり

日を 着 ちり ちり ちり ちり ちり

ちり 標

湯 ぬ ちり ちり ちり ちり 木 満  
せ の つ た ちり ちり ちり ちり 雪 旌

ちり 合

ちり 合 切 ちり ちり ちり ちり 蒼虬  
ちり 合 け ちり ちり ちり ちり 雪 旌

萍

萍の経るくくはるすたふ

栲子

栲子のくくくも也くお経

凌雪

凌雪に筑屋く斗く夕く武

蒼乃花

蒼のむきくくくく月くくく

苔の花

苔のくくくくくくくく

西のくくくくくくくく

、

蒼虬

木海

蒼虬

雪旌

雪旌

井破日

来く人くくくくくくく

井植を我くくくくくく

田植

流けくくくくくくく

くくくくくくくくく

田植えくくくくくく

傍正くくくくくく

扇

かくくくくくくく

扇

万和

雪旌

木海

万和

雪旌





雪部

雪部 雪のふりやうふ

雪 旌

夕鳥

夕鳥と早稲こもるや 雪の穴

、

夕鳥やたふふむハこえさ

、

夕鳥にくれりけりけり一羽籠

蒼 虬

夕鳥よふあそけり古きら

蒼 虬

瓜

瘦瓜の生きや 瓜乃豆

雪 旌

夏子

夏子の名よりけり 夏より葉

木 旗

全書上

蟬

つとまはくりにて 蟬乃声

、

まろ蟬鳴りしと 蟬一枕

、

床敷をよみよみしそ 蟬の音

、

木のあや一白 蟬一枕

蒼 虬

神蟬やけりけりけりけりけり

蒼 虬

蟬鳴りやけりけりけりけり

雪 旌

夕鳥のふりやうふむハこえさ

万 和

旅よけりけりけりけりけり

万 和

蟬

蟬を折りけりけりけりけり

雪 旌



麻子竹枝くちと流るる清き哉  
白山雨子へと一と出くも清き水哉  
雪外や清き歌を踏く一と  
糸糸小唄えさう糸は清き哉  
魚の鱗の清き縁乃清き哉

涼

すききやもあ松結の付くア  
すききに之舞の付くも門田哉  
まのつね人ささり 松はすきき哉  
すききにまをま井あけおひさり  
まをまふらまを清一や船の福

木海

雪旌

蒼虬

雪旌

今更上果

いとよもし清きまのなほくみすきみ  
まかりすききかきき枝う那  
まのらん灯をさあけつと清き  
母ありとゆきまのらりつすき  
すききか同一家と代のま

まを

雪旌

并婦人

けら後の伊はハヤヤマを  
人のまてぬしと見えき并婦人  
まを  
ちりとら流へくりまのら

くちやうとふふくたうてまうふ 木満  
まらやいつあえてもきの中、

まの夜  
ま向の門をなして月夜ま、  
飛鳥の飛をまるとも、まの夜、  
大向の夜をすくくまの夜、

ま川  
ま川やまはまううあてみん次、

六月  
六月やまも身をお智恵ハナリ 万和  
清接

夕風の向ふへさる清接の初 雪玉 雄



ちりりえきよのちりり  
柳のちりり

悦語今回家の巻夏終

全蒙上四田

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ